

広報かわにし

発行所 川西町役場 発行者 川西町 <町長 根岸正三>
編集 川西町役場企画室 印刷所 白南風社 定価 1部5円

—人口の動き—

3月1日現在

男 5,907人
女 6,135人
計 12,042人
世帯数 2,573世帯



スノーボードで急患輸送く2月19日 わかのくぼで撮影>

◆三月の行事

- 一日 上野・橋地区囃子委員会
- 二日 三手地区囃子委員会
- 三日 羽黒山滑降区選選手権大会
- 四日 仙田地区囃子委員会
- 五日 川西中卒業生を励ます会
- 六日・七日 所得税確定申告納税相談 (役場で)
- 八日・九日 定例町議会 (二十五)
- 十日 定例教育委員会
- 十一日 上野若菜会学習発表会
- 十四日 仙田こたま会発表会
- 十五日 中学校卒業式
- 十六日 千手婦人のつどい
- 十七日 町民雪上レクリエーション大会 (魚沼で)
- 二十二日 幼稚園発表式
- 二十五日 小笠原式

町章の図案募集

デザインはあなたの手で

町章を制定することになり、その図案を募集いたします。過去にも、再三にわたって町章をつくるような給しがあり、なかでも合併十周年の記念行事の一つとして一般から募集してみたらどうかという、具体的なプランさえあったようです。それがようやく実現したわけで、躍進する川西町を象徴するようなものを、ぜひみなさんの手でデザインしてみてください。

学童のみなさんの参加も大歓迎です。ふるって応募してください。募集要項は次のとおりです。

募集要項

- 1 趣旨 次の目的で制定する町章の図案として採用する。
- (1) 川西町と川西町民のシンボル・マークとする。
- (2) 紋章やバッジにするほか、広報紙をはじめとして町の刊行物等に貼り込むなど、これを広範囲に使用し川西町の特色を強調する。
- 2 応募資格、点数、制限なし。
- 3 作品の規格等
 - (1) 用紙は画用紙を使うこと
 - (2) 大きさは、縦・横とも十七センチ程度とし、形状は制限しない。
 - (3) 色彩は三色以内にとどめる
- 4 応募期間 三月十日から五月十日まで。
- 5 あて先 川西町役場企画室
- 6 審査 別に定める方法による
- 7 賞金 入選一点一万円 選外佳作二点各二千円。
- 8 発表 一広報かわにし一六月号で発表する。
- 9 入選作品について
 - (1) そのいっさいの権限は川西町に帰属する。
 - (2) 町章として採用するとき、作品の一部を手直しすることがある。
- 10 その他 応募作品は返却しない。不明の点は企画室へ照会のこと。

機構縮小により赤字解消

医療特別委から改善案を答申

二千万円の累積赤字をかかえて町財政のガンといわれていた診療所会計を改善するため設置されていた医療施設運営特別委員会から、このほど改善に関する答申が板津町長あて提出された。

同委員会は、一月十九日に設置され、同日付で町長から要旨事項のような諮問を受け、以来会議を重ねること六回、この間鋭意調査研究審議の結果二月二十八日の会議において最終的に答申案を決定したものである。

審議に当たっては、患者の医療に対する意識の向上、町を取り巻く医療機関の分布と町診療所の位置等から見て、診療所の機構を現状程度以上に維持して、運営面の改善だけで赤字を解消することは困難であること、

しかしながら、この豪雪地においてはどうしても町内に一定水準の医療施設を確保して町民の生命を守る必要があること、

以上、二つの立場から、町民に

医療施設に関する諮問のあらまし

1. 川西町国民健康保険(施設会計)の赤字解消方策について

現状を改善して単年度赤字の減少、もしくは解消を図り、二千万円の累積赤字は、これとの関連においてその処理を検討すべく、長年にわたる態案を根本的に解決して町財政の健全性を回復したい。

問題点を整理すると次のとおりになる。

(1) 累積赤字の処理

2. その他事項

その他、医療施設に關し改善すべき事項

で、答申案は①機構の縮小と②各診療所に医師を常駐させるという二点を中心となっており、累積赤字の二千万円は、糊上げして国保融資金庫の第三種融資を受けて処理し、その償還財源は一般会計から繰り入れること、とされている。

答申の内容

千手・橋南診療所の運営改善

1. 機構縮小の具体案

(1) 入院および給食は原則として廃止する。ただし、緊急の場合の処置については別に検討する。

(2) 機構は最少限とし、次の基準による。

医師：一、看護婦：二、事務職員：一、運転手：一

計 五人

・ただし、看護婦については特殊事情を考慮することができ。

・千手診療所は建物の構造等の事情により一名程度の増もやむを得ない。

・過員となつた職員は役場へ吸収するが、利用率の向上に伴い、復元することができ。

・人員削減に伴い、事務の一部を役場に移動することができる。

・宿直は、役場職員に応援させる。

2. 経営改善について

(1) 医師は、両診療所へ各一人が常駐する。常駐困難の場合は専属とする。

・常駐もしくは専属によつて

千手診療所の老朽化対策

(1) 千手診療所の老朽化対策

(2) 橋南診療所の自車更新

累積赤字の処理について

四十一年度未現在の累積赤字二千六万四千四百八十二円は、原則的には、診療所経営の改善によって解消するのが理想である。しかし、最善をつくしても、単年度赤字の解消すら困難な状況な

一町議会報告

四十三年度予算審議はじまる

会期は十九日間

昭和四十三年度の当初予算等を審議する三月の定例会は、八日に招集、翌九日と二日間の本会議後十日から休会にはいり、二十五、二十六日の再開までに各常任委員会で審議が続けられることになりました。

この議会の付議事件は次のとおりです。

農業委員の推薦

●昭和四十二年度川西町一般会計

●補正

ので、累積赤字は運営改善とは別個に、すなわち、次の方法によって処理することが適当である。

1. 新潟県国民健康保険融資金庫から融資を受けて処理し、償還財源は一般会計から繰り入れて年次計画により償還する。

2. 融資を受けるにあつて、すみやかに所定の財政再建計画書を作成し、議会の議決をえて本年度内に処理することが必要である。

3. 四十二年会計で生ずる見込みの単年度赤字は、年度内に補正して一般会計からの繰り入れによって処理すべきである。

課題

1. 診療所運営委員会のあり方

その存廃を含めて再検討し、存続するならば、実効をあげられるものにする必要がある。

2. 保健医療行政の一元化

診療所を医療施設としてだけでなく、健康管理と指導の機関として活用、保健婦施設、母子健康センターや役場などと有機的な連携をすすめる、保健医療行政の一元化をはかること。

3. 診療所の原簿移管

現状では相当に困難視されるが、その方策を検討すること。

4. 地味医併置の可否

地域住民の強い要望でもあり経営合理化と関連して検討すること。

新年度予算上の処置

以上、単年度赤字の解消を目標としたものであり、機構縮小による人件費の節約と経営改善による利用率の向上をめざしているが利用率向上による増収は確定要

予算

●昭和四十三年度国民健康特別会計(事業勘定・施設勘定)予算

●昭和四十三年度農業共済事業特別会計予算

●一月十八日の第一回臨時会で継続審査となつた請願六件の委員長報告

新規請願

●総文関係 四件

●産経関係 五件

●土厚関係 十件

以上十九件が本定例会までに事前審査を委託されたが、その後、新たに一日睡眠薬禁止に關する請願一件が加わつた。

託規約の議決

●新潟県人事事務組合を組織する地方公共団体の数の増減及び規約変更

●昭和四十三年度川西町一般会計

津南町で一日県庁

豪雪地帯で行なわれる一日県庁として注目されていた一県政広聴のついでに、予定どおり二月十三日に津南町役場で開催された。この日町からは根津町長、和久井議長らが出席したほか、前号でお知らせした茂野ミン(藤沢)丸山一徳(原田)のおふたりが、郡内八人の意見発表者に互して出席し、それぞれ別項のよきな意見の発表が行なわれた。

県側は、巨知事を筆頭に、佐藤企画部長、北野衛生部長、重野土木部長、小野塚教育長ら十数人の関係部課長が出席し、意見発表者の発言に対して答弁がなされた。

へき地・災害対策を訴える

町から茂野・丸山さん出席

傍聴者 約二百人

まず、午前九時三十分から一時間にわたって地元市町村長及び議会議員と県側との懇談が行なわれ、市町村長側から順次県に対して要望事項が述べられた。川西町からは、根津町長から④道路整備について⑤農業振興について⑥へき地居住者に対する移住援助の措置について、の三点について要望の趣旨説明が行なわれた。他市町村からの要望事項も、道路関係、豪雪対策関係が大部分であったが、これらの要望に対しては、時間切れのため、残念ながら県側の答弁は得られなかった。

次いで十時三十分から約二百人の傍聴者を前にして八人の意見発表が行なわれ、これに対して巨知事以下関係部課長からそれぞれ懇切丁寧な答弁がなされた。

川西町の茂野さんからは、「へ

き地対策出かせぎ対策について丸山さんからは、「河川対策について」要望が述べられたが、その要旨及び県側の関係答弁の要旨は次のとおりである。

山間地へも 無雪道路を

茂野ミン 農業 39才

①へき地における冬季分校について——現在十九人の冬季分校児童が昭和四十六年にはわずか五人になり、分校の閉鎖もやむを得ない。しかし、低学年児童を寄宿させることも困難であるし、なだれの危険をおかして本校へ通わせることは不可能である。このような山間へき地まで無雪道路を延長することができないか。

②後継者教育について——地区の定高は就職のための教育の場となっているが、これを農業後継者教育の場とし、できるなら中学教

育の段階で農業教育を強化し、後継者の確保をはかっていたら良かった。

③出かせぎ問題について——生きるために出なければならぬ宿

出かせぎ対策

長期的施策で考慮

県側答弁

北野衛生部長
仙田の診療所や津南の県立病院等も、ただそれだけで解決はできない。何とか地域の医療を確保しようと努力しているが、医師の不足で配置困難である。

そのため、雪上車やマイクロバス診療車を整備して補っていきたい。豪雪地帯においては、無雪道路ヘリコプター等利用が考えられるのだが、ヘリコプターは維持費

命であるが、男手不足の部落でいちばん困るのは急病人である。診療所の施設も不十分で、結局は村中総出で十日町まで運ばねばならない。このためにも無雪道路が必要であり、県立診療所の整備も願いたい。

また、内職のマワタよりは一日二百円ぐらいにしかならないが、もっとまじめな内職がほしいものがある。

無雪道路は相当な予算が必要だが知事から頑張ってもらおう。

巨知事
県としては、できるだけへき地の医師確保に努力している。さらに診療を受けやすいように配慮することが大切であるが、そのため無雪道路の確保をという茂野さんのご意見はごもっともである。ただし、これはなかなか容易

でない。ヘリコプターも何とか県で所有したいが、維持管理が容易でないので、自衛隊にお願いして便宜をはかってもらっている。

必要に感じ市町村長の要請があれば、知事から自衛隊に要請する仕組みとなっている。ただし、へきは気象条件に非常に強く支配されるので、終局的には無雪道路が必要ということである。

小野塚教育長
定高と農業後継者の問題については、農業関係でも実生の就業率は十パーセント程度である。

田淵職安課長
根本的には出かせぎをしないという社会を作ることが、当面の問題として、出かせぎ先の再就職、賃金不払い等の防止につとめている。

佐藤企画部長
出かせぎ問題に対する県の考え方を申し上げる。浜海川上流の瀬戸の産地であり、これは高橋源治郎君などの努力に負うものである。出かせぎの問題は、中魚・十日町だけのことでない。雪の問題を解決してもそれだけで出かせぎはなくなる。

要は、出かせぎをしなくても生活ができるように年間を通じて仕事があり、かつ他産業と同等の収入が得られるかどうかということである。

これは短期的にはない。しかし無雪道路の話題と同じく、順序と時間をかければ不可能ではない。長期的にはあるということである。苗場山麓の開発等はその一つだ。

巨知事
出かせぎの問題は、農林業に短期的のヒマができること一つ、原資で、経済的理由が大半であるが、そうでない場合もある。これは、県民の動向にによるものもあるが、できるだけその旨を



へき地問題を訴える 茂野ミンさん

水資源の利用により、県で使うだけ使って、余った東京へ高く売りつけるといふ手もある。要は

天然資源をどう利用するかということである。次に、兼業収入で出かせぎをしなくても済む方法があるかということである。十日町の桜葉等があるのでも、出かせぎをなくしてせめて土曜日には奥さんのところへ帰られる出かせぎとすることを必要であり、長期的施策として考えていかねばならない。

グループ出かせぎの奨励

みなさんの声を 県政広聴の



答弁にたつ直知事

工業の振興をはかるため、第三に未開発地の開発開田を促進し、また養鱈や無雪道路への水の供給をはかるため水資源を開発し、母な

県側答弁

多目的ダムの建設 雪と水資源活用

重野土木部長

河川、道路の改修に関するご要望に対して、いまのところ満足のいくように実施できる自信はない。県内の認定河川の延長は四千五百キロあるが、これに対して改良費は年間四、五十億程度の予算しか使っていない。昨年の羽越災害関係の復旧費三百億に比べて非常に少ない予算である。

丸山さんの言われるとおり、復旧より予防に重点を置くべきであるが、現状では県下の河川を改良するにはざっと五十年以上かかる計算となる。

この点国の治水五カ年計画の手直しが予定されており、その予算として二兆六千億にしたいという要望をしている。

丸山さんの適用河川昇格問題について、信濃川をはじめ中魚沼を流れている河川は一般河川であるが、本年新たに十河川の昇格を申請している。

改良工事は、先ほど申し上げたように年間四、五十億で、災害復旧費が三百億であるがこの比率が逆にならなければならない。

しかし、現在のところしばらくの間は災害復旧に追われると思う県としては、県単独事業でも維持修繕に努力している。

る信濃川によって県の繁栄をもたらすよう、遠大な計画を樹立していただきたい。

暖国政治を 改めさせたい

直知事

災害が起きる前の工事をというご意見はごもっともである。現実には期待と反対の面が多いが、運用の面でくふうしたい。予算にしても、中央政府から割当の採るものが七月になる。これをそのまま適用すると着工は雪の降るところになる。

日本の政治は暖国政治だといわれている面がなかなか改められない。

河川改修については、国の五カ年計画が最低二兆円を割らないように要望している。

その中で中小河川の方は、五千億程度と思う。

新潟県は中小河川が非常に多い。これをできるだけ政府直轄の一般河川として国の大きい力で改修してもらいたいと要望している。

ことは荒川、碓氷川、関川の三本を要望したが荒川だけが認められた。



河川対策で希望する丸山さん

上流にダムを作ることにも力を入れていますが、四十二年度においては全国で十カ所のダムが認められたうち、県で三カ所をとった。また四十三年度は全国で三カ所のうち県では刈谷田川の本が認められた。今後も全力をあげてやっています。

桶地区

農業日当

四月一日から十一月三十日まで男子千三百円、女子千五百円。

十二月一日から三月三十一日まで男子千二百円、女子千円。ただし女子の苗取りは千三百円。

以上は、いずれも食費三百円を含む金額。

簡単に便利な ミニレターの利用

ミニレターの特長は、びんせん封筒、切手を一枚で兼ねていて、のりしろをはり合わせるだけで郵便として出せることです。

しかも、必要があれば、全体の重さが十グラム以内なら請求書や名刺判の写真一枚づらいは封入でき、はがきの約三倍は書けるし、封をして出すようになっているので秘密も守れます。

そのうえ、ダイレクトメールなどの大型郵便物よりも優先して送達され、金も手紙と同じ十五円です。

白茶色とあざき色の二種類があり、旅行のおみやげ、家庭の常備にあるいは、簡単な贈答用品としても便利です。

うちへ帰られる場所へ出かせぎすることが望ましい。

河川の 防災工事を

丸山一徳 農業 37才

私は、かつて三年間にわたる大雨の災害による復旧工事で苦しんだ体験をもっているが、その後これらの小河川が適用河川に昇格して喜んでいる。

これらの体験からの次の事項を要望したい。

①山間地の中小河川を広く適用

河川に昇格させて、その恩典を広く及ぼしてほしい。

②災害が起きてからの復旧という現在の制度を一步進めて、災害発生前に補強するという防災工事を施行を考慮していただきたい。

③工事予算の配分のあり方を再検討し、現行三年間における二・五・三の配分を短縮もしくは前半に重点配分してほしい。

④雪と水資源を活用するために山間積雪地帯に中小規模のダム建設を計画していただきたい。

この要望の中において夏は水不足で陸稲もできないという現象が繰り返されているが、第一に農業の面から豊富な水資源を活用するため、第二に工業用水の確保により

